

統計コラム4 Plus

今回のテーマ 統計調査員ものがたり

登場人物



チヅル

統計課がいばらきクリエイティブハウスと手掛けた統計小説『異世界統計数値』の主人公。女子高生だがイヴァリキ国の王位継承候補者の一人。



エル

カズマのそばにいてるように任命された人間と魔物のハーフ。クールなカズマもエルには弱い？



4コマ漫画・イラスト kalo

今回は、「統計調査員」の業務の一端やエピソードを御紹介します。統計調査員の苦労やご努力をお伝えして、これを読まれた方々が、統計調査にさらに関心を持って協力していただけることを願っています。

1 調査依頼



ごめんください。統計調査員をしている者です。夕食前のお忙しい時間に申し訳ございません。昼間、何度かお訪ねしたのですが、お留守でしたので。



はい。どのようなご用件でしょうか。



先日、『統計調査のお願い』というメモを置かせて頂きました。

近年は共働きが増え、日中を不在にする世帯が多いです。おまけに、オートロックマンションができ、世帯の方に会うのも難しくなってきました。

- 何で統計調査をやる必要があるのか
- なぜ個人情報をごさげ出す必要があるのか
- 何に使われているのか
- 自分にメリットがない

などを訴える方がおられます。勢い余って、役所全般への苦情をいただくこともあります。

それでも、地道に、諦めずをお願いするしかありません。会えなくて何度も足を運んだり、説得に苦労はしますが、どんな業務でも苦労はつきものだと割り切っています。たとえ不在であっても、「統計調査協力をお願い」メモを書き置きして、次の面会チャンスに備えます。宅配便の不在票のようなものですね。



家計調査に、ご協力をお願いします。



家計簿自体付けたことはないし、我が家のふところ具合をごさげ出すようだと勘弁して欲しいですね。それに、ローンを抱え、買い物を控えているので、参考になりませんよ。ほかを当たってもらえませんか。

残念ながら断られました。しかし、初対面でOKしてくれる世帯の方がまれです。「家計簿付けたことない」とか「ほかを当たれ」はお断りのきまり文句。それともう一つ、「ウチは、特別な支出又は収入があるから参考にならない。」これもよく聞くことばです。こんなことでひるんでいては統計調査員はつとまりません。実は、ここから統計調査員の腕の見せ所なのです。



そうなんです。ローンがあると月々の返済も大変ですね。



大変さが分かってもらえれば、それで…



実は、支出が多い方やそうでない方、ローンがある方・無い方、特定の分野に支出が多い方、家族が多い・少ない、高齢者や単身者世帯などなど、いろいろな状況の方々について調べさせていただくのが統計なんです。



そうなんですか？



ええ。それに、最初は慣れるまでは大変かもしれませんが、家計簿を付け始めたことで、ローンの計画的返済ができたり、逆に無駄使いを発見できた、と感謝してくれる方も多いんですよ。



そういうことなら、協力も考えてみようか。でも、あなたは、『統計調査員です』と言って、個人情報を出そうとしているじゃないですか。



これをご覧ください。私の『統計調査員証』です。県知事から任命された私たち統計調査員は、他の人に情報を漏らすことは法律で禁じられています。辞めた後もです。ご記入いただいたデータは他の調査票データと集計して公開されるので、お一人お一人のデータは決して表に出ることはありません。どうぞ、安心して下さい。

この世帯は調査に協力してもらいましたが、油断は禁物。調査票を回収するには、依頼時と同じくらいお目にかかるのに苦労します。そして、きちんと調査票に記入されたかどうかを確かめなければなりません。

2 データのみならず「調査票」は、漏れなく記入

私の住んでいる市の統計調査員研修会に出席したら、我が市の姿を統計データから解説してくれました。国勢調査では、住民が自市町村内で働いているか、他の市町村まで通勤して働いているかが分かります。8割前後が自市町村内で働いている

という市町村もあれば、その逆で大多数が自市町村外で働いている市町村もあり、地域の特色が出るようです。さらには、国勢調査などのデータは、まちづくりの根拠データとしても使われているとのこと。自分の足で苦労して集めた調査票によって、こうしてデータとして我が市のことが分かり、我が市のためにも役立っていると知ると嬉しくなります。

ところが、最近「不明者」が増えてしまっているんですって。国勢調査票の「裏面」の従業地や事業の内容などの記入を書き漏らすと、「不明者」になってしまうのだそうです。住んでいる市町村の正しい姿を知るためにも、改めて、漏れなく記入することの大切さ、調査票回収時の確認の重要性を知りました。

3 審査とハプニング

そんな中、調査票を審査していて、ちょっとした事件に遭遇したことがあります。それは、家計調査を担当していた時でした。

「旅行代金 95万円」と記入されていました。金額の多寡や使用目的は問いません。「何でこんな高額な旅行ができるんですか？」などと必要以上にプライバシーに踏み込んではいけません。指輪代が3千円でも百万円でも、誰に、とか何のために、とか聞いてはいけません。しかし、旅行代金については、内訳を記入するよう役所から指導を受けています。旅行の行き先は国内か国外か、パック旅行か否かの別を記入しなければならないのです。早速、記入した世帯に電話しました。



もしもし、この間伺いました統計調査員です。お世話になっております。



はい、何でしょうか。

調査世帯の妻が出てくれました。この世帯は夫の方が家計簿を記入してくれています。本人が不在だったので、ちょっと迷いましたが、妻に続けて聞きました。



あ、う、3日に『旅行代金 95万円』とあるんですけど。これって、国内ですか、海外で…



えっ、旅行に95万円ですって…

驚愕の声に質問は中断…。どうやら妻は知らないらしい。この先、どんな展開になるのやら、想像するだけでも恐ろしく、気がついたら謝っていました。役所には旅行の内訳を記入して出さなければならないし、かといって世帯には今更聞けないし…。もんと1時間が過ぎた頃、調査世帯から電話がありました。夫の方からでした。



もしも、先ほど妻に電話をいただいた件ですが。



はい。先ほどは大変失礼いたしました。旅行代金のこと、お互いパニックになってしまって…



いいえ、却ってご心配をお掛けしました。今は妻も落ち着いていますのでご安心下さい。実はですね、前々から妻が九州方面をゆったりと巡ってみたいと言っていたもんでね、豪華列車の旅に出かけようかと、記念日に合わせて『サプライズ』のつもりで用意していたんです。



そうだったんですか。せっかくの『サプライズ』を台無しにしてしまって…、申し訳ございませんでした。



それが、あなたがまさに『サプライズ』してくれて、妻が興奮しているところに私が訳を話したので、また感動してくれまして、『サプライズ』を2度頂いたようなものです。却って感謝しています。

胸をなで下ろすとはこのこと。役所にも報告できる。迷惑を掛けたらと思ったら予想外に感謝されてしまって、なんか、こそばゆいです。実は、ありがたい話は意外とあるものです。

4 うれい反響

調査に協力していただいた後、新聞にこんな記事が掲載されたのです。



「3月から家計簿をつけ始めている。なんで今更と聞かれそうだが、総務省の家計調査の対象世帯に選ばれたのが契機になった▼水戸はメロンの購入額が全国1位、宇都宮はギョーザの消費額で浜松とトップを競っているーといった記事の基になっているのが同調査だ▼都道府県庁所在地都市や政令指定都市で対象を選定。県内では水戸市などで約150世帯が選ばれ、9月末までの半年間記録する。収入や支出、買い物の種類を金額と量も含めて回答する▼打診を受けたときには二の足を踏んだ。お金の出入りは個人情報そのものと思うし、回答するのは恥ずかしさの極みだ。気持ちが変わったのは「家計の見直しを始めるのに、ありがたい天の恵み」と受け止めたから

▼というのも住宅ローンは私、携帯電話料金は妻などと項目によって負担者が異なる「つぎはぎ」状態のわが家計。

調査に答えていくことで、全体像が浮き彫りになり、改善のためのデータが得られる気がしている▼現在、外食や総菜が増えたと反省。進学時期に当たり教育費が多い。店頭表示額とレシート印字額が違っている例を発見、がくぜんとした。前途多難な思いが深まる」(茨城新聞、2012年4月19日付け「いばらき春秋」から転載)

涙が出ました。やっとの思いで協力してくれた方が前向きに調査に取り組んでくれ、しかも調査終了後も家計簿を続けていくとのこと。

また、ある人からは、「家計簿をつけるようになってから、出る金と貯める金の管理ができ、車を買うことができた。」とお礼を言われました。

5 統計調査員として



思えば、統計調査員を初めて拝命したのは15年位前のこと。任命されると、まず、役所で調査員説明会があり、持ち区を指示され、その簡単な住宅地図を渡されます。それを元に持ち区をくまなく回り、世帯や事業所に調査依頼を兼ね訪問し、地図と名簿を完成させます。最近では、空き家と外国人、特にベトナム人が増えてる気がします。多い所だと、10軒中2〜3軒が外国人世帯のところもあります。言葉の壁がありますので、スマホやAIで解決できるようになるといいですね。スマホと言えば、レシートがスマホに表示され、家計簿も自動でつけられるようになるらしいとか。統計調査員をしていると国際化やIoTが身近に感じます。

つづいて、調査票の回収と審査をして、まとまったら、地図と名簿を添えて役所に提出します。その中では、やはり、調査依頼と調査票回収が大きな比重を占め、苦勞するところでもあります。それでも、統計調査を通じて、新たな方々との出会いがあり、それがまた新鮮で自分の視野が広がって行きます。調査員研修会でも知識が深まり、協力依頼のときに役立っています。統計調査員として持ち区を歩くので、健康にもいいかなあ、とも思っています。もうしばらく統計調査員を続けたいと思っているこの頃です。

お問い合わせ

茨城県企画部統計課普及情報グループ ☎029-301-2637 WEB いばらき統計情報ネットワーク 検索

いざかいとうけいけいせうた
統計小説・異世界統計数値はこちら



統計・異世界統計数値はこちら

